
唯我独尊！？生徒会！！

望月光輝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

唯我独尊！？生徒会！！

【Nコード】

N0203F

【作者名】

望月光輝

【あらすじ】

ごく普通の学生と寡黙でイケメンな女会長、神経性胃炎持ちの金持ち副会長、私が法律最強書記（女）、会長！どこまでもお供します的な書記（男）、世の中の悪事はすべて私が悪いんです！超ネガティブ不幸の女会計、儲かりまっかーな関西弁会計男たちのどたばたコメディー今日は何が起きる！

巻 条 目 ・ 迷 子 に な っ た ら あ き ら め る (前 書 き)

初投稿なので決して期待しないでください

壱条目：迷子になったらあきらめる

壱条目

私立桜川高校 通称桜校

この学校は特殊な校則がある

ここでは知力、運動能力などで階級が決まる

階級とはまず一般的な生徒はレッドとよばれる

それより下つまり落ちこぼれはブラックになる

レッドより上はイエローそして最強クラスのホワイトに分けられる
この学校ではたとえ後輩でも階級が上なら絶対逆らえないのである
しかし、一年に何度か定期的にある試験に受ければ階級をあげることもできる

だがこの学校では生徒そして教師すら逆らえない組織があつた
ともかくこの学校は何事も実力主義なのだ

「つて学校案内にかいてあるけど」

どうもはじめまして僕の名前は寿 緑 いっぴろ 今年から高校生です

今日は憧れの桜校の入学式！ なんだけど・・・

「ここどこーーーー！！」

迷子になりました

「この辺のはずなのにー（泣）」

キョロキョロ

そんなことを言っただけで歩いていると
ドン！

ぶ、ぶつかってしまった

「イテテテ、す、すいません」

「大丈夫か？」

はい、と言っただけで顔を見ると

イケメンがいた

式条目・世間って意外と狭い（前書き）

血迷って第二話なんて投稿してすいませんすいませんetc

忒条目：世間って意外と狭い

えっと、なにがどうなっってこうなっただけ

「おーい、聞いているか？」

とりあえず

「か、カッコいい」

「はあ」

10分後

「すいません、意識飛んでました」

あの後この人 弥^{わたり} 紺^{こん}さんに殴られてやっと意識が戻った

「まあ、よくあることだし」

日常茶飯なんだ

「今日なんて幼稚園児（女）がついてきてたしな」

うわーどこか遠くを見ているよ

「そうですか、大変ですね」

「そうなんだ」

この人の服どつかで見たことあるよーな

ええっと、なににな

桜川高校三年 弥 紺

桜川高校三年

三年

「あのーせ、先輩？」

「先輩」

ここは実力主義

新入生く上級生

やることは一つ

「すんませんしたー！ー！」

紺（なぜ土下座？）

「いや、あの、そのとりあえずマジすんませんでしたー！ー！」

紺「いや、あの、別にいいから」

い、良い人だー！

紺「土下座から戻って」

「あ、すいません」

紺「まあ、学校行くか」

「はい！」

そんなこんなで学校に着きました

紺「私は準備があるので」

「ありがとうございます！」

紺「今度は迷子になるなよ」

「は、はい」

か、カッコいい

あれが大人の男ってやつかー

「よし、僕もあんなふうになるぞー」

高校生活第一歩「ぬあんですってー！！私に黙って入学式ですって

！」

「はい！副会長が俺らに黙って事を進めてるッス」

「紫音のヤロー！」
しおん

何も見えなーい聞こえなーい

最近疲れてるのかな人間とは思えないスピードで走っていくものが

気のせいだよ

「姉さーん、待ってーな」
あね

「さっさと来い、八重歯！」

「八重歯ゆーな！」

「せんぱーい、待ってくださいーい」

「まっつん、遅いッス」

ギアアギアア

増えたよー

「やっぱ気のせい、気のせい」

僕はたしか1-Bだったような

「はい、出席を取るぞー」

えっ！もうそんな時間！

「すいまーせ」っと思っただがめんどくせーので、オレの自己紹介だ
け」

ズッコー！

「おお、このクラスは一体感があるなーみんなそろってこけたぞ」

「「「「「あんたのせいだよ！」「」「」」」」

「はい、とりあえずオレはお前らの担任になる 山田 青だよろし
く頼むぞー」

この学校ほんとに大丈夫かな

一日目にして少し不安になりました

参条目：類は友を呼ぶ

まあ、いろいろありましたが入学式です
「着席」

やっと始まりました

ああー、緊張するなー

「司会進行は生徒会副会長の 伊集院紫音いじゅういん しおんです」
真面目ってかまともな人だー！

紫「まず生徒代表として会長からご挨拶を・・・、って 黄沢書記おうさわ
なにしてるんですか！」

黄「うるさいわよ、堅物紫音！この黄沢 瑠衣様るいがこんな楽しそう
なことを見逃すと思って！」

紫「いいからマイクを返してください！」
あれはさっきの未確認生物そのー！

まさか生徒会だったなんて
黄「うるさいってば！朱！黙らせなさい」

朱「伊集院先輩すまねーッス！」

紫「こら小島こじまはなせー！」

朱「すまねーッス！逆らったら後で何されるかわかんねーッス！」
ふ、副会長ー！

「なんだまた生徒会の奴らか」

「今回もどうせ黄沢さんが言い出したんだろ」

なんか先輩たちが普通ってことは、これが日常なんだ
なーんだ、だったらもういいや

アハハハハ（壊れてきた）

紫「松永まつながー！」

松「ごめんなさい！ごめんなさい！私にはそんなお、恐れ多いこと
出来ません！」

紫「チクショー！こうなったら会長ー！」

「ごめん、無理」

新入生の心の声『あんたそれでも会長かよ!!』
会長？

まさか、あれは

「わ、弥先輩？」

紺「あつ、迷子君」

黄「知り合い？」

紺「まあ」

バターン！

生徒A「おい、保健委員、副会長の胃炎が悪化したぞー」

保健委員「はい」

紫「ちきしょー」

キリキリ↑胃炎の音

保健委員「早く運ぶぞー」

対応が早いなー

四条目：拉致には十分気をつけましょう

紺「シンドイ」

この弥先輩の一言でなんとか生徒会メンバーは退散してくれた
そのおかげで無事（？）に入学式は終わった
僕もこれからは普通の学生のはずだったのに

「ここはどこー！ー！！」

拉致られました

黄「フフフフ、よくきたわね1年B組出席番号12番寿 緑！」

いや、あんたが連れてきたんだろぅが
にしても、うちのクラスは対応早いなー

誘拐されてももうみんな普通だったよ

あれ目から汗が

「シクシクシク」

「ほれみい姉さん、めっちゃ泣いとるやん」

黄「うるせー、八重歯」

「だから、オレには 黒井 遊星ちゅう立派な名前がなー」

黄「はいはい」

「あのー僕はなぜここにいるんでしょう？」

黄「いやー、聞くとところによると紺に困っている所を助けてもらっ
たとか？」

「あ、はい」

黄「そ・れ・で」

うわー、ニヤニヤしてるよ

ろくなことじゃないんだろぅな

黄「君にはこの生徒会のパシ「ゴホン」じゃなっくて
今パシって言ったよね！

黄「生徒会の補佐をしてほしいの」

「パシリじゃなくて？」

黄「amp;黒「違う違う（ちゃうちゃう）」

「とりあえず仕事内容は何ですか？」

黄「おつ、やる気に「なってますん」

チッ

舌打ちしたよこの人

黄「まあ、補佐って言ってもほとんどあたしらと変わんないけど」

黒「ええーっと、まず行事での裏方役やるそれから荷物点検にあと書類点検、学校設備についてと部活の予算決め大方こんなもんやな」

「へえー」

黄「まあ、とにかくこれ強制だから」

「えっ」

黄「生徒会命令」

「横暴だ！職権乱用だ！」

黄「あたしが法律じゃーー」

そんなーー

黄「アッハハハハハ（ゴッソ）痛い！誰よ後ろから殴った奴！」

黒「オ、オレしらへーん」

あれって

紺「一体何をしているんだ 瑠衣」

いやーなんかドラゴンが見えるよー

黄「こ、紺」

黒「抜き足、差し足」

紫「何処に行く気だ」

黒「ゲッ！しーちゃんまで」

朱「あーあ」

松「き、気をつけないと」

それからしばらく二人は説教をされていました
ほんとに大丈夫か

五条目：趣味は人それぞれ

一体あれから何があつたのだろう

僕の目の前にあるこれは

「な、何事？」

「寿 緑くん 生徒会入りおめでとう！ー！ー」

わー、これってもしかしくなくても弾幕？弾幕だよね、っーか

「弾幕ウウウー！ー？！」

黄「はい、ようこそ生徒会へ」

「っわ！どつから沸いたんですか！」

この人のせいか

黒「いやー、おめでとさん」

こつちもかよ

朱「この生徒会にもついにまともな人が」

松「よ、良かったです」

に、二年コンビも

紫「こ、これで仕事が減る！ー！ー！」

「副会長！ー！」

あなただけは味方だと信じていたのに（泣）

紺「なんだ決まったのか」

こ、この声は

「弥せんぱーいいいいいい！」

弥先輩まさかそのあなたが着ているのは

スで始まってトで終わる

女子が着る

いやいや完璧な人間って居ないし

そうゆう趣味も人それぞれだし

「弥先輩！僕そうゆうの偏見はありませんから！」

弥「な、何が？」

「例え女装癖あつたとしても！」

黄「あんたやつと女子用の制服着たの」

弥「ああ、ほかの制服は全部クリーニング行きだ」
この会話からすると

女装は黄沢先輩の趣味か

いやー、何だ何だ良かったー

黄「あんた一応『女』なんだからさー」

O N N N A

おんな

女

「へ、Hey, one more please」

黒「発音つま！」

黄「女」

う

「うそ」

黄「うそじゃないわよ」

紺「寿 緑」

「は、はい！」

紺「とりあえず生徒会入りおめでとう」

「ど、どうも」

って

「僕入るとは」

黒「姉さん姉さん！新メンバーのお祝いしよや」

黄「八重歯にしては良い事言うじゃない」

黒「だから八重歯って」

あのー入るなんて

朱「二人ともーこんな日ぐらい喧嘩は止めましょうよ」

松「わ、私何か買ってきます」

朱「オレンジジュースでいい？」

「あ、はい」

しまった思わず返事を

紫「苦節10数年神は我を見捨てなかったーーーー！」

弥「これで少しはまともな生活になるな」

紫「か、会長ーーーー！（泣）」

だから何でいつも

「こうなるのーーーー！（泣）」

父さん母さん

今日は何故か目からしょっぱい水がでました

六条目：友達の家に行く時でもアポを取れ

どうも皆さんこの前不本意ながら生徒会補佐に就任した寿 緑です
今日は待ちに待った日曜日あの生徒会メンバーと過ごさなくていい
ので

二度寝します

おやすみー（寝ないでー！by筆者）ピンポン
チッ、誰だよこんな朝っぱらから
ピンポン

「はい、ハイハイ」

ガチャ

「どちら様ですか？」

黄「おつはよ」

バタン！

「神様神様、僕が何かしましたか？」

黄「開けるー！」

ドンドン！

ガチャ

「近所迷惑です、帰ってください」

黄「うわ、帰れ宣言！」

「訴えるぞ、コノヤロー」

黄「まさかのタメ語」

ゴン！

あつ、目の前が霞んでくる

かろうじてみた最後の景色は

朱「すまねーッス」

謝る先輩の姿でした

後でぶっ殺す！

「ここは？」

目覚めた僕の目に一番最初に飛び込んできたのは

『黒井組』

「うわーヤクザみたいだなー」

黄「ヤクザみたいじゃなくて」

松「ヤクザです」

「えっ、マジ？」

何が悲しゅうて高校生でヤクザ訪問を

「間違つても入ろうだなんて」

黄「こんにちはー」

人の話を聞いてー

「ああ！言つた傍から！」

ヤーさん「何のようじゃー」

「いやー！ヤーさん出てきたー！」

朱「ガンバっす！」

そんな遠くに逃げんなよ

「何でそんなに離れるのー！ー！」

ヤーさん「坊主、天下の黒井組に殴り込みとはええ度胸じゃの」

「そんな」

？「一体何の騒ぎや、二度寝も出来へんやん」

こ、この声は

ヤーさん「すいやせん、『若』この坊主が」

黒「坊主？」

あの八重歯は間違い無く

「く、黒井先輩」

黒「おう、新入りやないけ」

「ここって」

黒「俺んち」

「『若』って」

黒「俺」

ええええええええ！！

黄「ドッキリ大成功！」

黒「家来るんはええけど電話かなんかしてや」

黄「やだ、メンドイ」

朱「つかテーマがドッキリお宅訪問だから無理っす」

松「です」

憧れの弥先輩は今何処で何をしてるのでしょう
出来たら助けてください（泣）

次回は

ドッキリお宅訪問パート 2

「まだ続くの?!（泣）」

漆条目：一度でもドッキリにハマったら一年間は笑いにされる

ヤーさんたち「……」若のお友達とは知らずすいませんでしたー
「……！」「……」

今現在僕こと寿 緑はヤクザ訪問をしてしまい

何故か強面のおにーさんたちに土下座されています

「いや、か、構いませんけど（汗）」

ヤーさん「こうなったらもう腹切るしかねー！」

「えっ、いや、ちよつと（汗）」

ヤーさんその2「平ハイイイ、介錯は俺に任せろー！」

「なにもそこまでしなくても（汗）」

平「五郎ウウウ、後のことは任したぜエエー！」

僕の話も聞かずに切腹を試みるヤーさんたち

「いやー！お願いだから人の話を聞いてエエー！」

朱「いやー、凄まじいっすね」

松「ですうー」

黄「さすがモノホンヤクザ」

黒「血の気おおて困るわー」

→の4人は縁側で茶を啜って傍観

「ちよ、誰でも良いから止めてー！」（泣）」

ブッシュウウウー

平「うっ」

「ぎゃー！ほんとに刺したー！」（泣）」

黒「ったく、しゃーないな」

「先輩イイイ（泣）」

黒「そんなくらいにしとき」

平& amp; 五「へい」

えつと今普通に立ちませんでした？

「う、え、えええええー……！！！」

平&五「ドッキリ大成功！」

またこのパターンかーーーーー（泣）

黄

「さあ、楽しんだし次行こうか」

黒

「あゝ、それ俺も？」

黄

「Yes I doウー！」

うわー、物凄く帰りたい

黄

「次のお宅訪問はー」

松

「か、会長の家です」

朱

「遂に弥先輩の時代がアアア！」

うわっ、この人ただけ弥先輩ファンなんだ

「でも、弥先輩の家は気になるし」

やっぱり和風のワビサビがある感じの家なんだろうなあ

「よし！弥先輩に会ったら速攻で帰ろう」

こうして、僕の突撃お宅訪問は続くのでした。

次回！

黄

「意外と広いのね、紺の家」

生徒会メンバー（紫音を抜く）で訪れた弥の家
しかし！

朱

「アレ、黒井先輩が居ませんよ」

次々と消える仲間

そして

黒

「嘘やろ、こんな事って」

呪われた伝説

「そんな！黒井先輩！」

遺体で発見される真実に迫った人物

弥

「黒井を殺した犯人は！アンタだ！」

一体弥の家で何が！

そして黒井を殺した犯人と隠され続けてきた謎とは！

この予告は120%嘘です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0203f/>

唯我独尊！？生徒会！！

2010年10月28日03時21分発行